

# 泉南走ろう会

連絡先  
泉南ス和ツ社  
0724(83)4653

マラソン人生について

阪神ハイ窓1マラソンに参加して

会長 遠 健 三

ゴールを目指して懸命に走る「あと五分」とマラソン後戻りながら大きな声があり、皆さん「が、うん」と食べている。どうだ、給水の飲料水以外にバナナ。パン、うどんがあつた。バナナはともかくとして遅い。ランナーにはもうパンがながつた。うどんがまだあらんになあと思つて「あと五分」との声、清水で私は後戻り、どんどん給食を開けてしまうのです」と聞くと、後戻りではなく、「では、さすよ、もう後二〇メートル程走ったところは三七キロ地点で、そこを六時四十五分までに通過ともうわざと、收容される。それまでに「あと五分」しかなく、うんとひどよ」との事。

あ、情けない、ここまで五時間四十五分もかかっている。制限タイムは六時間というのに、後五キロ、十分ではとても走れないが、無理だ。ブロックの選手ではあるまじし、このままゆけば、タムオーバーだ。かつてフルマラソンはだいたい四時間

以内に完走していた。それが、もう四時間以内では走れない。今は五時間でも六時間でも走れないと、阪神間の海を眺める壮大なるロマンチック街道、角び味わうことのできなか、熱烈先生が走そした。この時憲で私は牧野先生に十キロ以上離れている。そして、私の知り合いの山の会の連中、五人程が折り返して来て、速いさん頑張れ」とまた歓迎往還小野、食事もその他の私を知つて、下さるランナーから頑張れ」と声援を受ける。なんたることか、山の会の連中とは今まで反対ではないが、仕方がないさ。昨年は一月から走るレースはこの如く過去最底の自己タイ記録であった。十キロもハーフもフルマラソンもすべて自己最底の記録であった。

そして十一月、一席ダメマラソンなどと止めをさして、「あと五分」との意味ですが、あと五分での方に「それはどういふ意味ですか、あと五分でうどんの給食を開けてしまうのです」と聞いていた。「なにを言つてゐるのだと、七十になつても今くヒ、後戻り」とうでではござりますよ、もう後二〇メートル程走ったところは三七キロ地点で、そこを六時四十五分までに通過ともうわざと、收容される。それまでに「あと五分」しかなく、うんとひどよ」との事。

あ、情けない、ここまで五時間四十五分もかかっている。制限タイムは六時間というのに、後五キロ、十分ではとても走れないが、無理だ。ブロックの選手ではあるまじし、このままゆけば、タムオーバーだ。かつてフルマラソンはだいたい四時間

なったところです。  
阪神高連携幹線完成を祝して六甲の山々と阪神間の海を眺める壮大なるロマンチック街道、角び味わうことのできなか、熱烈先生が走そした。この時憲で私は牧野先生に動のドラマ、私にとてもこれが最後のフルマラソンだ、感無量である。走そよかつたマラソン人生万キマリである。

何度も収容車から乗りますが、

といふやうながら、それを

有難とうと、振り切って開門を無事通過

タラムオーバーでも完走

あります、名前を背に

暮れゆく東神戸大橋

しばしばすばらしい

景色だと、足を止める。

また走る日は暮れた、

満月は天空に昇る、

「景色ですね」と隣

リのランナーに声をかける。

「あ」と言。景色に感

うだ、小太のではない。

もう走る、朱ぐんフ



ラフだ。私より

シズシ達がゆく。

景色を見る氣がも

声も出ないものである。

お先にな」と声をかけて

私は走る。完走あるのみ。これが私のフルマラソン最後となりであろう。もう走れないのである。喜びも悲しみも幾歳私のマラン人生。

交通規制解除ランナーの皆様は信号は守って下さい。歩道のあるところは歩道を走って下さい、歩道のあるところは歩道を走って下さいと大さな声で叫んでいた。信号が変わった。青です、走って下さい。それでも走れない。哀れとこうも愚心かなり。

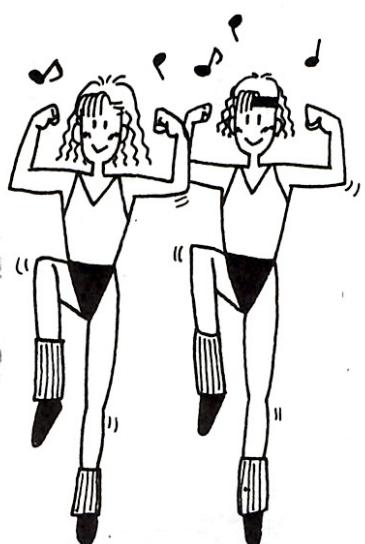
牧野先生は私より三時間、な四時間も前にゴール前、もし私のゴールを待て下さいと言ふとすぐ下へもう徐くにびれて帰られたであつた。私は過張る。遂にフルした六時間二十分十秒である。決勝審判員もおらず、完走証もなし、ただ給水の係の方はこれまで終いものです。口を切ておりますと給水の残りものの飲料水の大びんを一人一人に渡している。「有難う」私は笑えてきた。なんだか緒末。これでこんなに私は満足。フルマラソンを完走したのだ。飛び跳ねる感動のドラマ、暗くなれた会場を後にする。ホッカ、スエフアンドジョンが私は次の目標がある。これはスエフアにまた今やり直し。私のマラン人生は終らない。

### 追伸

後日一緒に参加した山の会の連中より庵話があり「ねにその後どうしましてか」と自分のは自己最高で初めてフルマラソン四時間五

切ったとの事。そそ例のところで祝杯を上げたとの事。結構、結構。

牧野先生そして奥様も好意的に完走された。立派、立派、敬意を表します。当曰、元金川健走ライフルに参加された方々の結果や如何がと思いつぶや止めます。



ランニングがもたらす小さな幸せ

牧野源泉

昨年の忘年会の折り、会報紙の充実のため、会員が駅伝方式で話題を提供しようということになりました。今月が私の番です。

困ったなあ。こう忙しくては、陽春さながらのルンルン気分になることはもとより、語るネタすらトン트思いつきません。しかし、折角の機会をバスしなくありません。されば、4月2日土曜日、話題を求め、話題を掘り起こすために、ジョギングに出かけました。この小さな体験のなかに、それらしき、ささやかなものを見い出しました。その過程を再現すると……。

コースは、みんなんご存じの、青少年の森→お菊山→高倉林道→市民の里→種河神社です。早速に汗が出てきいい気持ち。だが、登りが急になるあたりから、しんどくなる一方。これから解放されるためには、注意を別に向けて、走っているという意識をそらすしかない。

ほとんど春真っただ中。先に来た時より山全体の色が違つて映る。「何色? それは春色だ」所々に、春だけは仲良しになりたいタラの芽が、採り頃になっているのに気づく。昨年の今頃、会長の達さんか

ら、葉が人参のそれに似た野人參という草を教えて

もらい、これとタラの芽とユキノシタのてんぶらの、取り合せは、美味だと聞いたことを思い出す。前二者はともかく、ユキノシタは見かけないが、どこ

にあるのだろう。庭師さんにでも聞くか。

そうこうするうちに、木立の中の道に入る。途中、大きな山鳥(雉の仲間)とその羽音にびっくりとうハブニングにも遭遇したが、小径を上下して駆けて行き、お菊山の頂に着く。ここで足を止め、視界が開けた方向に目をやると、新空港への連絡橋が遙か向こうにかすんで見える。汗がドット吹き出るのを感じながら、開港直前にいま一度眺めに来ようなどと、当てもならないことを思う。

後はラクチン、ラクチン。いま辿ってきた道程を頭の中で反芻しながら、どんどん下る。そう、この気分、この感覚。このうえないランニングの効用に浸りながら、市民の里まで降りてくる。ここでタラの木が群生する、半ば公然の秘密の場所に立ち寄つて収穫をと考へた。が、これは止めて、最初にその場所を見つけた石橋さんに楽しみを残しておくことにした。感覚が残っているうちに、家に帰って原稿を仕上げることを優先させたまでのことである。

多分に独りよがりでしうが、罪のない小さな幸せに漫れることは、ランニングの効用の一つだと改めて思いました。

お知らせ

## 例会日

四月二十日 午前九時

新家 権河神社前広場

## 備考

比喩と相談して決める

## コース

四月例会日 10月、二十二日

集合時間場所

「もと同じ  
四月十九日レンジカル上ランニング  
五湖(二七キロ)四月二十二日(土)  
参加の皆様の御健斗を祈ります。」

